

## ◎加久見・タクラ山城跡の調査を実施(3月28日)

先日3月28日(月)午前中、「市史編さん事業」における中世山城悉皆調査を実施した。調査は、松田直則市史編集委員(高知県立埋蔵文化財センター所長)、武藤清市史編集委員(土佐清水市郷土史同好会会長)、生涯学習課市史編さん室田村と吉本が実施した。また、標高約150メートル頂上まで小川豊治さん(加久見地区在住)にご案内いただいた。



↑左から武藤清編集委員、市史編さん室田村、松田直則編集委員、小川豊治氏。

調査では、小川豊治氏の案内でタクラ山北東部の竹林から登山し、傾斜が急峻な峰筋を5人で這い上がった。頂上には国土地理院の設置した三角点の石柱と標柱があり標高150メートルの表示があった。

頂上の平場は2面あり、北側に三角点が所在する最高部の平面、そこから約5メートル下に2つ目の平場があり、ここが詰(本丸部分)と推測される。この詰の西側に石列を含む人工的な盛土で造成された土塁跡が見られ、敵の西側からの侵入に備えたものと思われる。また、現在のあしずり港が正面に見え、ここから越浦への船等の海上交通の様子が手に取るように分かり、海上交通の監視的役割もあったことが理解できる。

以上で、令和2年冬季から始めた土佐清水市域20城跡の悉皆調査がすべて完了した。調査で作成された中世山城の最新の縄張図や写真は、令和5年末に発刊予定の『新市史』通史編及び資料編に掲載する予定である。楽しみにお待ちしております。

## 「高知家遍路道プロジェクト」における本年度の実績

本年度の標記プロジェクトで次のような事業を「あしずり遍路道保存会」「土佐清水森林組合」のご協力のもと実施することができましたので、ご報告をいたします。

- ①真念庵の真念供養塔等3基の説明板設置
- ②真念庵周辺道南側の手摺延長設置
- ③窪津クジラ道の丸太橋の2本設置



設置された窪津クジラ道2本



真念庵境内に建てた真念供養塔等の3基の石造物の説明板